

(別紙)

生成 AI 機能に関する特約事項

本紙は、別表に定める生成 AI 機能（以下、生成 AI 機能といいます）に関する注意事項になります。お客様が生成 AI 機能を利用する際、以下の内容をご確認の上でご利用ください。本紙に特段記載の無い定義については、WebPerformer-NX サービス約款、サービス仕様書、利用サービスプラン表によるものとします。

1. 生成 AI 機能に関する説明

当社はお客様に対して、生成 AI 機能に関する情報を別表 1 に記載し、提供いたします。

2. 生成 AI 機能の利用に関する課金形態

- (1) 生成 AI 機能は、当社が発行する「クレジット」を消費することで利用できる機能となります。「クレジット」は月初めに、各実行環境に対して利用サービスプラン表に記載するクレジット数を無償で付与いたしますが、月内のクレジット残数を翌月に繰り越すことはできません。
- (2) お客様が無償付与分を超えて生成 AI 機能を利用したい場合、有償にて追加でクレジットを購入いただく必要があります。詳細につきましては価格表をご確認ください
- (3) 別表 1 の「チャットボット」・「AI 呼出関数」機能をご利用の場合、「内部生成 AI サービスオプション」（別途有償オプション）をご購入いただくことで、WebPerformer-NX プラットフォーム組み込みの RAG および LLM をご利用いただけます。詳細はサービスプラン表・価格表をご確認ください。

3. 生成 AI 機能に関する留意事項

お客様は、生成 AI 機能を利用する場合、次の事項に同意するものとします。

- ① お客様は、自らの責任により生成 AI 機能を利用し、第三者の権利を侵害するおそれのある行為等に生成 AI 機能を利用しないものとします。
- ② 生成 AI 機能に活用する生成 AI には常に最新版のマニュアルを適用しておりますが、不具合がないことを担保するものではありません。また、提供する内容はお客様にとって必ずしも有用な情報ではないこともあり、保証するものではありません。
- ③ 生成 AI 機能のソースコードもしくはその他の基礎となる構成要素（モデル、モデルパラメータ、モデルウェイトなど）を導出または生成 AI 機能の訓練データを複製するためのその他のプロセスもしくは手順を適用しないものとし、またはこれらを試みないものとします。
- ④ 生成 AI 機能はあくまで「提案」という位置づけであり、100%正しいアウトプットとして生成されるわけではございません。生成されたアウトプットの品質やセキュリティ上の脆弱性、第三者の権利の非侵害性はお客様ご自身で確認いただく必要がございます。当社は生成されたアウトプットについて一切の責任を負いかねます。
- ⑤ 生成 AI 機能によるアウトプットに関する権利は、当該アウトプットを生成したお客様に帰属するものとします。機械学習の性質上、アウトプットは一意でない場合があり、同一または類似の結果を生成する場合があります。なお、当社は本サービスを提供するために必要な範囲において当該アウトプットを使用、利用（複製を含みます。）することができるものとします。
- ⑥ お客様は、開発アプリケーションを通じて生成 AI 機能を利用主体に利用させる場合には、自らの責任に基づき当該生成 AI 機能を利用させるものとし、本特約事項および別表 1 に記載の内容を利用主体に周知し、同意を得たうえで利用させるものとします。

お客様が、利用主体に対して周知する際の設定方法に関しては最新版のマニュアル「コンポーネント ダイアログ UI - キャンパス」をご参照ください。

- ⑦ 有償オプション（内部生成 AI サービスオプション）の利用終了時は RAG および LLM 等のデータの一切を、当該終了後 30 日以内に削除するものとし、お客様はこれに対して何らの異議も述べないものとします。

(別表 1)

	AI ドキュメントアシスト	AI コードサジェスト
機能の概要	お客様が WebPerformer-NX の使用方法をチャット形式で生成 AI に質問ができる機能です。	お客様のより良い開発体験を実現するため、自然言語による指示でコード (JavaScript) を自動で生成する機能です。
AI を活用している範囲 (どの機能にどのような AI が活用されているのか)	オンラインマニュアルに対する検索操作を実行する際に AI を使用いたします。	入力された日本語に応じたコードを生成する際に AI を使用いたします。
適切な使用領域 (どのような目的でどのように利用するのか)	お客様が WebPerformer-NX の使い方(ドキュメントの該当箇所など)を知りたい際に、チャットベースで質問を入力してご利用いただけます。	お客様が WebPerformer-NX 特有のコードが分からない場合、あるいは、ボリュームの多いコードを書かなければならない場合において、お客様が実現したい内容を入力してご利用いただけます。
学習の有無 (プロンプトに入力した情報が AI 学習に利用されるのか)	無し	無し
ログの記録・保存	無し	無し
生成 AI の望ましくない動作や想定されるインシデント	お客様が入力する質問内容が抽象的な場合、回答内容として想定と異なる回答を返す場合がございます。	・お客様が入力した実現したいコメント(プロンプト)内容が抽象的な場合、生成したアクションが正常に動作しない、あるいは、想定と異なる場合がございます。 ・コメント(プロンプト)の内容に関わらず、提案されたコードには不備が含まれている、または想定と異なる場合がございます。 ・上記の場合に限らず、想定と異なる、または正常に動作しない等の問題が生じる場合がございますので、必ず、開発者ご自身の目で不備の確認をしていただく必要があります。

	AI SQL サジェスト	AI コードフィックス
機能の概要	お客様のより良い開発体験を実現するため、自然言語による指示でデータベース言語である SQL を自動生成する機能です。	お客様のより良い開発体験を実現するため、作成した JavaScript のコードを生成 AI がチェックし、必要に応じてコードの成型を行ってくれる機能です。
AI を活用している範囲 (どの機能にどのような AI が活用されているのか)	入力された日本語に応じた SQL を生成する際に AI を使用いたします。	作成した JavaScript の正否を判断する際に生成 AI を使用いたします。
適切な使用領域 (どのような目的でどのように利用するのか)	お客様がボリュームの多い SQL を書かなければならない場合、あるいは SQL の記述が得意でない場合に、実現したい内容を入力してご利用いただけます。	お客様が作成した JavaScript のコードに対し、コードの正否やエラー箇所を知りたい場合、あるいはより良いコード案を知りたい場合にご利用いただけます。
学習の有無 (プロンプトに入力した情報が AI 学習に利用されるのか)	無し	無し
ログの記録・保存	無し	無し
生成 AI の望ましくない動作や想定されるインシデント	・お客様が入力する質問内容が抽象的な場合、回答内容として想定と異なる回答を返す場合がございます。 ・コメント（プロンプト）の内容に関わらず、提案されている SQL には不備が含まれている、または想定と異なる場合がございます。 ・上記の場合に限らず、想定と異なる、または正常に動作しない等の問題が生じる場合がございますので、必ず開発者ご自身の目で不備の確認をしていただく必要があります。	・お客様が入力した、実現したいコメント（プロンプト）内容が抽象的な場合、生成したアクションが動作しない、または想定と異なる場合がございます。 ・コメント（プロンプト）の内容に関わらず、提案されているコードには不備が含まれている、または想定と異なる場合がございます。 ・上記の場合に限らず、想定と異なる、または正常に動作しない等の問題が生じる場合がございますので、必ず開発者ご自身の目で不備の確認をしていただく必要があります。

	AI UI サジェスト	AI UI モディファイ
機能の概要	お客様のより良い開発体験を実現するため、画面レイアウト（画像データ）をアップロードすることで、生成 AI が画面構成やレイアウトの特徴を解析し、必要と思われるコンポーネントを配置した UI 定義を生成する機能です。	お客様のより良い開発体験を実現するため、作成した UI 定義に配置された各コンポーネントを AI が解析し、要素間のズレや余白のばらつきなどを自動で補正する機能です。
AI を活用している範囲 (どの機能にどのような AI が活用されているのか)	画面レイアウト（画像データ）の解析と UI 定義を生成する際に AI を使用いたします。	対象となる UI 定義の解析と、各コンポーネントの配置を補正する際に生成 AI を使用いたします。
適切な使用領域 (どのような目的でどのように利用するのか)	画面レイアウトの画像をもとに、類似 UI の画面定義案を自動生成することで、UI 設計初期のたたき台を作成する際にご利用いただけます。	作成済みの画面定義に対して、余白や配置のズレを自動補正するなど、レイアウトの調整作業に伴う省力化の手段としてご利用いただけます。
学習の有無 (プロンプトに入力した情報が AI 学習に利用されるのか)	無し	無し
ログの記録・保存	無し	無し
生成 AI の望ましくない動作 や想定されるインシデント	・お客様がアップロードした画面レイアウト（画像データ）の解像度等の影響により、想定と異なる場合や不要な内容を生成する場合がございます。 ・上記の場合に限らず、想定と異なる、または正常に動作しない等の問題が生じる場合がございますので、必ず開発者ご自身の目で不備の確認をしていただく必要があります。	・UI 定義のコンポーネント配置により、想定と異なる場合や不要な内容を生成する場合がございます。 ・上記の場合に限らず、想定と異なる、または正常に動作しない等の問題が生じる場合がございますので、必ず開発者ご自身の目で不備の確認をしていただく必要があります。

	チャットボット	AI 呼出関数
機能の概要	開発アプリケーションを利用する利用主体が、入力した質問に対して、生成 AI がチャット形式で回答を返すコンポーネントです。 生成 AI サービスと連携することで、業務データやナレッジを活用した対話型のユーザインターフェースを実現できます。	開発アプリケーションの機能として、生成 AI を関数として呼び出し、その判断結果や生成結果を業務ロジックや画面処理に組み込むための機能です。 生成 AI の出力をアプリケーション処理に直接反映させることができます。
AI を活用している範囲 (どの機能にどのような AI が活用されているのか)	利用主体が入力したメッセージをもとに、外部の生成 AI サービスが応答文を生成する処理に AI を使用します。 また RAG 機能を利用して、登録されたナレッジ情報の検索・要約にも AI を使用します。	関数呼び出し時に指定された入力情報をもとに、生成 AI が判断・文章生成・要約等を行う処理に AI を使用します。 生成された結果は、アプリケーション内の後続処理で利用されます。
適切な使用領域 (どのような目的でどのように利用するのか)	利用主体からの問い合わせ対応、業務手順の案内、FAQ 対応など、利用主体との対話を通じて情報提供や業務支援を行いたい場面でご利用いただけます。	業務処理の途中で生成 AI による判断や文章生成を行い、その結果をもとに処理分岐やデータ登録、画面表示内容を制御したい場合にご利用いただけます。
学習の有無 (プロンプトに入力した情報が AI 学習に利用されるのか)	利用する AI サービスに依存 ※内部生成 AI サービスオプションの場合、学習はしません	利用する AI サービスに依存 ※内部生成 AI サービスオプションの場合、学習はしません
ログの記録・保存	無し	無し
生成 AI の望ましくない動作や想定されるインシデント	・利用主体が入力する質問内容が抽象的な場合、回答内容が想定と異なる場合がございます。 ・ナレッジ情報や設定内容によっては、適切でない回答を生成する場合がございます。 ・必ず利用主体自身で内容の妥当性を確認していただく必要があります。	・入力情報が不十分または抽象的な場合、生成 AI の判断結果が想定と異なる場合がございます。 ・生成された結果をそのまま業務処理に反映した場合、誤った処理が行われる可能性がございます。 ・必ずお客様自身で結果内容の確認・制御を行っていただく必要があります。